

## マネー教育（幼児～小学生編）

ファイナンシャル・プランナー 永野 智子

新年明けましておめでとうございます。本年も皆様にとって実りある素敵な一年になることをお祈り申し上げます。

早速ですが、皆さんはどのようなお正月を過ごされましたか？ご自宅でのんびりした、国内外へ旅行に出かけたなど、実に様々な過ごし方があると思います。

私が子供の頃は、必ず年末年始を母方の祖父母の自宅で家族や親せきと一緒に過ごしました。そんな子供の頃の楽しみと言えば、やはりお年玉です。親戚が多いので、沢山の年玉を貰えます。今思えば、大人にとっては正月時期に係る飲食代の他に 20 人程いる子供にお年玉を渡すのですから、当時の出費はかなりの額だったと思います。

### ■お金の価値

我が家のお正月ではちょっとしたイタズラで、未就学児にはお年玉袋を 3 種類用意していました。中身はそれぞれ 1000 円札 1 枚、500 円玉 1 枚、1 円玉から 100 円玉までの小銭がジャラジャラした総額 500 円未満のお年玉です。中身を見せずに選ばせると、袋に重みのある 500 円玉が入っているお年玉袋や重量感がありジャラジャラと音がするお年玉袋を選びます。中身を見せた場合では、ジャラジャラと見た目に沢山お金があるものを選びます。それを見ている親はヤキモキ、周りの大人達は大笑いです。

何故このような事が起こるのでしょうか？それはお金とは何か、またお金の価値をまだ理解できていないからです。大人になってからもお金の価値が分からなくなる経験をした覚えがありませんか？例えば海外旅行で外国の通貨を初めて手にした時です。まるで子供銀行のおもちゃのお金を手にしたような感覚に陥りませんでしたか？それは、実際にその通貨を使用した事が無く、価値が分からない為にそのように感じるのです。しかし現地で実際に現金で買い物を重ねるうちに、現地通貨の価値を自然と学び、気がつけば日本のお金と同様にその通貨を扱っていますよね。

### ■お金の教育

皆さんはご両親からお金の教育を受けた経験がありますか？もしくはお子様へお金の教育をされていますか？

今でこそ一般的になりましたが、昔はお金のお話をするのはどこか卑しいような風潮があり、人前どころか家族間でもあまりお金について話す機会がありませんでした。私自身、両親から特にお金の教育を受けた記憶がなく、手元にお金があればあるだけ使う子供でした。お金の事をよく分かっておらず、いつでもすぐ手に入るものだと思っていたのです。そのまま大人になったとしたら、今頃多重債務により自己破産といったところでしょうか・・・お陰様でそのような事態に陥る事はありませんでしたが、社会人になりたての頃は働く事の大変さとその対価で得たお給料の範囲内で生活する事の大変さを、身をもって思い知らされました。

お金は使い方次第で様々な影響を及ぼします。そのため、お子様へのお金の教育は是非行って頂きたいものです。教育の開始時期はお子様の性格に合わせ、段階的に行う事がお勧めです。以下に簡単に教育のポイントを挙げましたのでご参考ください。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

### ◆幼児期～小学校低学年：お小遣い制を始める前

お子様の物心がつく頃に、**おもちゃを大切にすることを教える事がお金の教育の第一歩**です。今あるおもちゃはご両親や両祖父母が一生懸命働いて得た給料や貯金した大切なお金で買っています。それを話す事で、モノやお金の大切さ、感謝する事を覚えていきます。また、買物時にお菓子やおもちゃ等をねだる場合、**決められた予算内でおやつを選ばせたり、時には我慢する事を覚えさせる**のもこの時期に大切な教育の一つです。昨今の子供は6つのポケット（両親や両祖父母の合計6人の財布）をもつと言われ、欲しいものが手に入り易い環境にいます。欲しい物は何でも簡単に手に入るという認識のまま育つと、いつまでもそれを繰り返し、年齢を重ねると同時に自然と対象が高額化していきます。いずれお小遣い制を取り入れる事を踏まえ、計画的にお金を使えるようになるためにも、早いうちに時には我慢をする事の大切さを教えましょう。

また両祖父母にとって孫はとても可愛いもので、孫の喜ぶ顔見たさに思わず色々な物を買って与え、その結果甘やかしてしまう傾向があります。孫を可愛がってもらえるのはとてもありがたい事なのですが、度が過ぎてしまうと、子どもが我慢する事やお金を計画的に使う事を学ぶ機会が減少してしまいます。場合によっては、ご夫婦で決めたお子様へのマネー教育方針について両祖父母に話し、理解や協力を得る事も必要になります。

### ◆小学生：お小遣い制を始める時

小学生になると、お友達でお小遣いを貰っている子が出始め、その影響でお小遣いを欲しがるとなるとなると、お小遣いと言っても、定額制、手伝い制、成績制など様々な方法があり、それぞれにメリット・デメリットがあります。**ご家庭の事情やお子様の性格に合わせて**どのような方法を選択するのかを検討しましょう。

一例：お小遣い制度：メリット/デメリット

定 額 制：お小遣いの計画が立てやすい / 手伝いをしなくても必ず貰える

手伝い制：働く事でお金を貰える仕組みを学べる / お金を貰えなければ手伝いしない

成 績 制：頑張ればご褒美がある喜びを知る / お金の為に勉強するようになる

お小遣いの金額も、そのお小遣いで何を賄うかによって異なります。また、最初はお小遣いを上手に管理して使う事ができません。まずはおやつのみを賄う**少額で1週間単位から開始**し、様子を見て2週間、1ヵ月とお小遣いを渡す間隔を延ばしましょう。同時に小遣い帳を習慣化し、小遣い日に**お子様と一緒に**お小遣い帳を見ながら収支をふり返り、**必要な物と欲しい物の区別を考える習慣やお金の使い方を話し合**いましょう。これらが習慣化されれば、お小遣いの金額を上げ、賄う範囲も広げるのも良いでしょう。小遣い管理に慣れてきたら、お年玉などの大金の管理の方法を親子で話し合い、お子様名義の銀行口座を開設させ、お子様自身に管理させるとまた一段と成長するでしょう。

最近はお金欲しいものがすぐに手に入るため、お小遣いを使わずに貯めてばかりいる子供も多いようです。その場合は貯める事だけではなく、お金の使い方も教えましょう。また、親の目の届かないところで、お友達同士でお金の貸し借りが発生するケースがあります。そのため、**お金の貸し借りにおける善悪についても教える**必要があります。

何事も初めは失敗がつきものです。思わず口を出したくなる事も多々あると思います。しかし幼い頃の失敗は、その後の大きな失敗をしないための知識となります。口を出したくなかった時はグッと堪え、お子様の自主性を尊重し、寛大な心と長い目でお子様の成長を見守りましょう。